



## 小さな起業が地域を救う

庄原スモールビジネス講座・9/13

No.6

西城自治振興区が主催する、庄原スモールビジネス講座「小さな起業が地域を救う！」が、西城自治振興センターで開催されました。これは、日常的に「まち」を活性化させる仕組みを、全4回のリレー講座で考えていくものです。

第1回は、「カフェを起業する～人と人をつなぐカフェ。憧れのカフェ開業のノウハウを知ろう！～」と題し、東本町「ひだまりカフェ」オーナーの木村<sup>とし</sup>さんが講演した後、徳岡真紀さんをファシリテーター（議事進行役）に迎え「自分を振り返る」をテーマにワークショップを行いました。当日は、約30人が参加し熱心に耳を傾けていました。



▲参加者は開業のノウハウを学んだ

## 収穫の喜びを味わう

総領保育所園児が稲刈り体験・9/12

No.5

総領保育所の園児9人が、総領町下領家の山根喜久恵さんの田んぼで、地域の人と一緒に植えた稲の刈り取り体験を行いました。この取り組みは、米作りを通して地域の人との交流を図り、農業への理解を深め収穫の喜びを知ることを目的にしています。園児たちは、5月の田植えから収穫までの間、水田に生息する生き物を観察しながら、稲の成長を楽しみにしてきました。

稲刈り体験では、地域の人に鎌の使い方や稲の持ち方などを習いながら、たわわに実った稲を刈り取っていききました。園児たちは「上手に刈れたよ」「お米を食べるのが楽しみ」と話していました。収穫した米は、自分たちでおにぎりにして味わう予定です。



▲鎌を使って稲を刈り取った

## 子ども時代の俳句を灯籠に

灯籠とヒゴタイのコラボレーション・8/20～

No.2

比和町内で、俳句を記した灯籠が飾られました。この俳句は、比和町出身の新成人たちが小学6年生の時にしたためたもので、地域への愛着や想いが込められています。これまで成長を見守ってきた地域の人などに見てもらおうと、NPO法人比和まちミュージアムが企画しました。中には改めて俳句を作った新成人もおり、当時の俳句を記した灯籠と並べて飾られました。

地元の人は、「今でも変わらない地元への思いが感じられる素敵な俳句だ」と話していました。

灯籠は、より多くの人に見てもらえるよう、町内に咲き誇る希少な盆花、ヒゴタイの近くにも飾られ、ヒゴタイを見に市外から訪れた人も目を留めていました。



▲咲き誇るヒゴタイと灯籠

## 初体験のラジオ作り

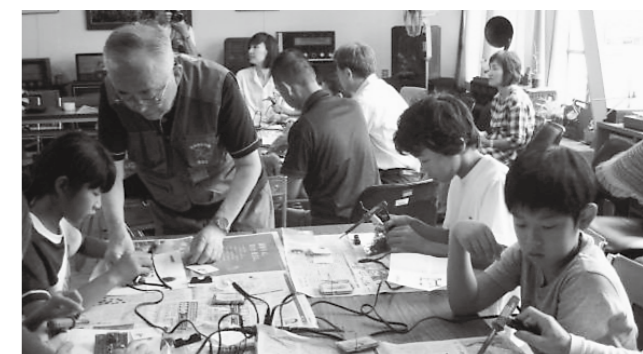
親子ふれあい電波教室・8/28

No.1

親子ふれあい電波教室が口和郷土資料館で開催されました。ラジオや電波の仕組みについて学習し、親子でラジオを作成しました。

小・中学生とその保護者の計約40人が参加し、電波についてのDVDを見た後、簡単なラジオを作成しました。参加者の皆さんは、ラジオ作りが初体験で、設計図を見ながら講師や隣の人などに聞き作成していましたが、ラジオの音が出ず、「どうしたら音が出るのか」と言いながら苦勞して作成していました。

口和郷土資料館の安部<sup>ひろよし</sup>博良館長は「今後も体験教室を開催し、皆さんに機械や音響などの仕組みを知ってもらいたい」と話していました。



▲夢中でラジオを作る参加者

## 伝統芸能の魅力を披露

比婆荒神神楽広島公演・8/13

No.8

昨年比婆荒神神楽保存会が広島文化賞を受賞したことを記念し、国指定無形民俗文化財「比婆荒神神楽」の公演が広島県民文化センターで行われました。この公演には、次代を担う若い世代の子ども神楽塾と女組も出演しました。

最初に登場した女組は「神舞」と「神迎え」という厳かで優美な儀式舞を披露。続く子ども神楽塾は「曲舞」「指紙」の儀式舞と「荒神の能」の能舞を演じました。保存会からは「猿田彦の舞」と「国譲りの能」が披露され、特に長刀を高速で回転させる「長刀猿田」では、その妙技に会場が大いに沸き、観客は古式をとどめた伝統ある神楽の魅力を堪能していました。



▲比婆荒神神楽「国譲りの能」

## 日ごろから災害に備えて

1泊2日の避難所体験ツアー・9/13～14

No.7

高野保健福祉センターで「避難所体験ツアー」が開催されました。これは避難行動要支援者が災害時に速やかに避難できるよう、避難所への移動・宿泊を体験するツアーで、高野地区民生委員児童委員連絡協議会、庄原市社協などの主催により、高野町で初めて実施されました。

当日は高齢者や民生委員など19人の参加があり、庄原消防署高野出張所の消防士永戸<sup>ひさし</sup>久尊さんを招き、備えの大切さや災害時の行動について学習しました。

高野地区民生委員児童委員連絡協議会草谷末廣会長は「体験を通して避難の大切さを理解してもらえたと思う。今回の取り組みを通じ、地域の防災に対する意識が高まることを期待している」と話していました。



▲災害時の備えなどについて学習する参加者

## 子どもたちの未来のために

庄原ロータリークラブ奉仕プロジェクト・9/15

No.4

庄原ロータリークラブは、ロータリー財団100周年記念プロジェクトの一環で、田川子育て支援施設の園庭の環境整備と縄ばしご型の遊具・ラダーウォールの贈呈をしました。ラダーウォールは、子どもたちがつかまったりして遊ぶうちに、感覚に刺激を与えて発達を促すのに役立つといわれています。

園庭の環境整備では、施設を運営する一般社団法人里山こども未来会議のメンバーも加わり、高所作業車での樹木の剪定など、総勢約30人で行いました。

ラダーウォールの贈呈式で、同法人の久保照子代表理事は「全ての子どもたちに光を当てる事業を共に果たしていこうという勇気もらった」と感謝を述べました。



▲樹木の剪定など環境整備の様子

## ふるさとで凱旋落語会

真打ち昇進記念林家ひろ木ふるさと落語会・8/21

No.3

東城自治振興センターで、「林家ひろ木ふるさと落語会」が開催されました。林家ひろ木さんは東城町内堀出身の落語家で、来年3月21日に真打ちに昇進します。

この落語会は今回で4回目となり、弟弟子の林家木りんさんと2人の講演で、昼の部と夜の部合わせて約300人が来場しました。落語会では「林家ひろ木ふるさと落語会実行委員会」が準備したサイン入り手拭いと紅白餅が配られたほか、真打ち昇進時に必要な幟や幕の資金のため、たる募金も実施されました。

林家ひろ木さんは恩師や地元の人の前で緊張しているようでした。林家木りんさんは「こんなに地元が応援してくれているのを見たことがない。本当にうらやましい」と話していました。



▲落語と津軽三味線で場を盛り上げた林家ひろ木さん